

## 第3回羽幌町離島振興計画策定住民委員会 会議録

- 1 開催日時 平成25年1月9日(水) 15:00~17:25
- 2 開催場所 羽幌町役場 2階幹部会議室
- 3 出席委員及び欠席委員の氏名
  - (1) 出席委員: 松森 二美子、宮崎 尚武、野上 正弘、万谷 美喜子、寺坂 國廣  
大井 幸子、高松 亮輔
  - (2) 欠席委員: 、蝦名 修、佐賀 大一
- 4 説明のため出席した事務局職員の氏名  
総務課長 井上 頤、総務課長補佐 酒井 峰高、政策推進係長 熊谷 裕治、政策推進係主事 廣谷 将大
- 5 会議の公開、非公開又は一部公開の別 公開とする
- 6 議題及び議事の要旨
  - (1) 議 題 羽幌町離島振興計画(素案)について
  - (2) 議事要旨

### ○委員長よりあいさつ

3回目の委員会は、本来であれば焼尻島で開催するはずだったが、承知のとおり、悪天候が続き今日まで遅れて、年を越してしまったということで、本庁で開催することになった。後の話になるが、4回目に関しては日程調整をしながら、焼尻島で開催しなければならないだろうと考えている。

本来の計画であれば、年内に町長に答申をするという格好だったが、悪天候で会議が延び延びになった。限られた時間の中で委員会を開催することになるが、この会議の中で皆さんの意見を聞いて、町長にきちんとした答申をしたいという様に考えている。

私の考えとしては、今までの会議の中では、具体性が無いという意見もあったが、限られた時間の中での議論になるので、当然議論をすることは良い事だが、あまり細かい具体的な所まで議論するとなれば時間もかかるということで、委員会の中である程度大綱を示して、その大綱の範囲内で各部署に検討してもらおうということで考えており、色々な意見もあると思うがこのような格好で進めていきたいので、忌憚の無いご意見をお願いします。

### ○事務局より資料1、3、4について説明。

委員: 例えば、資料4の23「水産物及び漁箱のフェリー運賃の支援」という意見

があるが、それに対する回答で「他産業との兼ね合いもあり、経営上の経費についての助成は、町の規模から困難である。」とある。当然、町は金が無いので仕方の無い話だが、そういう話を国や道に働きかけて欲しいということ。

委員：同じ部分になるが、「他産業との兼ね合いもあり」というのがピンとこない。

事務局：資料4の23の意見の内容については、水産物や漁箱など漁業者の支援に対する意見となっているが、その他にも商業などの商品の海上輸送経費もあり、それらの事業者全てに対し支援するとなると、どれだけの規模になるか算定した訳ではないと思うが、町の規模から難しいという回答になったものと思う。

委員：例えば、プロパンガスや揮発油に関する意見では「国や道に対して海上輸送費支援を要請していく」とあるので、同じ回答では駄目なのか？

事務局：委員長からも意見があったとおり、担当課に伝え、国や道への要請が可能か検討します。

事務局：離島振興法が改正になった関係で、これに関わらず海上輸送費に関する要望を国に要望をしている。

委員：離島活性化交付金は、そもそも本土との格差を無くすことを前提で話をしていると思う。

事務局：総選挙があった関係で、具体的なメニューが全然示されていない。ただ、制度設計にあたって、国としてどういう事業が良いかという要望調査があったので、その時に軽減策等の要望をしている。

委員：資料5の11Pの福祉の所で、「健康づくりを推進する」と載っているが、これから高齢化が急速に進むので、健康づくりと共に生きがい作りも進めてもらいたい。住民だけでやるのは大変で、行政も一緒になければ進めて行けないので、そのことも加えて欲しい。

委員：計画素案の11Pに今の意見を付け加えたいという意見で良いか？

委員：高齢者に対する生きがい作りという項目が無いので必要と思う。

事務局：高齢者に限った部分に拘るのか、それとも高齢者もそうだが、年齢に応じて若い人や中高年の方々に対する生きがい作りも含めての方が良いのか？世代も変われば、メニューも変わって来ると思う。

委員：町側には老人大学があって学習する場所があるが、島には無い。

委員：宗像市の計画を見ると17Pの8番に「行政の取り組み」というものが載せてある。こっちの計画にもこういったものを載せれば良いと思う。

委員：資料2の蝦名委員の意見があるので、計画素案の意見交換の前に紹介した

方が良いと思う。

委員：資料2だが、第2回目の会議後に蝦名委員から意見書が届いているので、私から朗読させてもらう。前段の文章は省略し、7行目から紹介する。

○委員長より資料2について説明。

委員：意見書の内容については、やはり先程も話したとおり、具体性に欠ける計画であり、少し踏み込んだ内容を掲げてはどうかというような意見と思う。これを基に、議論を進めて行きたいと思うので宜しくお願ひしたい。

委員：資料4の「意見・質問・要望のまとめ」だが、ここまでで何か具体的に意見等は無いか？これは、各部署からの回答ということで、意見・要望に対し、この様に進めて行くということで問題は無いと思う。

○事務局より資料5「基本構想」について説明。

委員：前回の会議でも言ったし、蝦名委員が触れている内容も同じ様な事だと思うが、この基本構想自体に関しては誰も反対は無いと思う。今回の改定版でなくても、前回のものでも一緒だが、これをするために具体的にいくら予算がつぎ込まれて、いつそれを始動するのかということに対する不安が大きい。町長が掲げる3本柱があるが、いつ実行したのか？それは既に完成したのか？今、手を打ってこういう状況なのか？ということ。不安と言うか、疑問がある。良い事を言ってもやらないのであれば意味が無いので、それであれば重点課題の方に即効性のある島の問題を盛り込みたいという議論になっている。金額を具体的にということではないが、例えば、「漁業に従事するなり手がいない…」とあるが、皆分かっていること。じゃあ、何をしたいのか？どう動くのか？という所の話の水掛け論でしている。

委員：病院の医師の関係にしても「ずっと居てくれるだろうか…」とあるが、先生の気持ちを言っているだけで、やはり道や町が動かなければどうにもならないこと。そして、「年齢を重ねたときに、ちゃんと暮らしていけるだろうか…」って、何にも決めていないでこんなことばかり書いてあり、不安である。具体策を示して頂かないと、宗像市の計画の方が分かり易い様な気がする。構想は良いが、この計画は固過ぎる。計画をもっと詰めて行ってほしい。漠然と言っているだけで、何の手立てもない。

委員：気持ちだけを羅列して基本構想と言っているだけ。町が決めた3本柱で今まで町が何をやって、なぜ島がこういう状況になっているのか分からない。例えば、「漁業に従事するなり手がいない…」ということを基本構想に盛り込んだのであれば、平成25年度4月から役場の担当部署が島に来て、

漁業者を集めて意見を聞き取るとか、観光業の人達を集めて意見を聞き取るとか、それで7月頃からこれをやる、10月頃からこれをやるということが計画に入っていれば、なるほどと思えることも「なり手がいない…」では分からない。

事務局：今、後段に言ったことが、基本計画に載ってくる話。基本構想の部分は島民の思いというか、気持ちみたいなものを書いている。だから、こういう基本目標にして、10P以降にある基本計画をどういう風にしたら良い方向に持って行けるか、出来るだけ具体的に載せて行ければなどということ。

委員：回答の結果が、さらに具体性が無いという意見が出ていて、蝦名委員が言う新事業展開の起動年や予算など、振興計画にはそれを盛り込みたい。そのために時間が足りないのであれば、もっともっと回数を増やしてもらっても構わない。なぜ、年度内に決着をつけなければならないのか。その初歩的な段階がクリアされていない。はっきり言ったら行政の勝手。だから、この短期間の中で4回だけで済ませようとしている。

委員：この計画に載った取り組みは10年以内に必ず始動するのか。

事務局：達成するかどうかは分からないが、その方向に向かって進んで行きたいということ。本当に細かい話になってしまうと、例えば海鳥繁殖地で言うと、こういう事業を2年やったがあまり効果が無かったと、せっかく具体的な事を載せたけど効果が無く時代背景も変わり、それよりも良い手法が出てきた場合、計画に載って無いということになるので、あまり具体的な部分まで載せてしまうと逆にいずいということがある。それで、出来るだけ方向性を絞っておきたい。当然、やることによって予算も変わるし、10年スパンで考えると、具体的な所まで載せるのは逆に難しいということもある。漁業振興にしても、意見を聞いて2年、3年経ったときに、もう少し違う事を行った方が良いかもしれないなど、時代が変わればそういう意見が当然出ると思うので、そういう所でうまく活用して行くためには、細かい具体策まで載せてしまうといずい気がする。

委員：逆に、細かいことを載せずにどうやって動いて行くのか？

事務局：それで、毎年、町政懇談会や産業別懇談会等での意見を踏まえて、実際に予算にして行く。

委員：例えば、具体的に3年なら3年後に、この計画がどこまで達成したかの説明は役場で考えているのか？そういう風にやらないと、これで作った終わりでは、どこまで進んだのか分からない。何年後かに検証するとか、同じメンバーを集めてどこまで進捗したということが必要と思う。

事務局：去年、羽幌町全体の振興計画を作った時にも同じ様な意見が出ていて、それを踏まえて検証して行くような流れを作りたいと思っている。全部の

事業を検証するのは大変なので、やっている事業の中から選択して、それに対する評価として、こういう方向性に向かって、こういう事業をやって、こういう予定を組んでここまで進行したという評価はしていきたいと思っている。

委員：今まで、10年なら10年計画を作ってそのままというものが多いが、それであればやる意味が無い。評価をする場合でも、同じメンバーを集めて検証すべきだと思う。

事務局：メンバー等については、羽幌の振興計画と離島の振興計画の部分は同じ柱なので、出来れば同じ組織として一本化して、部会を設けた中で離島部会を設ける格好で、島に関する事業を検証するなどの流れで考えたいと思っている。

委員：3回、4回そこらでは、期限的に無理がある。まだまだ言いたい事は沢山あると思う。

委員：基本構想から少しズレるが、ようやく最近、こういう会議があって焼尻から自分が出ているという話になり、島の中で気付いた人達がいる。ワークショップの時に声が掛からなかった人が居て、島民全体に周知すらされていない中で「なぜ、お前が組合の名前を持って行っているんだ？青年部長になればそうなるのか？」など、という意見がある。今更言うことでは無いが、段階を飛ばし過ぎではないのかという気がする。この計画を作っていることを知っている島民が何人いるかと言ったら、おそらく10人、20人の世界なので、その人達以外の島民に諮りにかけて、全員がこの基本構想で納得して、これから安心してこれに沿って進めて貰えるんだと思ったらこの内容で良いと思うが、この小さい集まりの中で話をしているから、各部門の代表の人達があれもこれも役場に言わなければということでごちゃごちゃしている。この内容で良いと言えないのは、段階飛ばしにし過ぎているという気がする。

委員：要するに、何人かで決めてしまうのではなく、まだまだ皆の意見を聞きたいということ。

委員：反って、これで不安を煽られるという感じがしている。

事務局：段階としては、住民委員会を開いてアンケートを実施して、ある程度思いとか意見をまとめたものとして素案を作り、総括的な意見を皆さんから頂くということで、特に島で関連する漁業や観光、福祉関係の代表の方に出て頂いて計画を見て貰おうということ。

委員：趣旨は理解しているが、3回、4回の会議で結論を出すと言うのは。

委員：現状、この会議に漏れている人達の声を最近聞くようになって、「どうせやらないんでしょ。役職のある人の話だけ聞いて、ある程度形にしましたで終わりなんでしょ。」という意見を良く聞く。

事務局：実際、この委員以外にも一般公募の委員を募集したが、両島ともいなかった。

委員：基本構想の目標という部分も、ある程度限られた時間の中で進めていかなければならないということなので、具体的なことについては色々と意見はあると思うが、この基本目標としてはこれで良いのではないかと思うが、皆さんが了解してくれば先に進んで行きたいと思う。

委員：構想はこれで良いと思うが、これを踏まえて具体策が欲しい。

委員：小さい取り組み内容の度に担当者に細かく島に来て、「計画の中でこういう事業があって、これをスタートしたい。」ということで、細かく意見を拾って頂くとか、町政懇談会の様に全員が来るのではなくて担当部署の人達だけでも細かく来て貰うとか。島民も正直無責任な所があって、町政懇談会があっても忙しいから行かないなど、羽幌のタイミングで来るものに対しては参加し難い所もあるので、小まめに続けて行けば皆それなりに危機感も持っていると思うので、それなりに意見も挙がってくるようになると思うし、人も段々集まって来るのではないかと思う。対話がスムーズに、離島と本庁が温度差無くやって頂けるのであれば。

委員：昔は、産業別懇談会もやっていた。やはり、産業だけで何人か代表者を集めてやった方が意見を集約しやすいということもある。

#### ○事務局より資料5「基本計画」について説明。

委員：再生可能エネルギーの「エコアイランドを目指します。」という取組は、時代的に必要な取り組みなのか？島民の生活に殆ど直結していない。事例として、11月末位に両島で再生可能エネルギーについて振興局か道か分からないが会合があったが、天売の参加者が4人、焼尻の参加者が5人で、両島合わせて9人しか関心の無いものに、10年計画に掲げて何かやらなければならないのか？

事務局：自然環境の島なので、今すぐということでは無いが、10年スパンの中で使用する車もガソリンではなく、電気自動車に切り替えて行くだとか、特に天売の場合は、焼尻から海底ケーブルで電気を頂いているので、少しでも自家発電するという取り組みが防災と言う観点も含めて、長い目で見た時に必要ではないかということで載せた。風車もそうだが、電気自動車であれば、島民も電気自動車に乗っているし、観光で借りた車も電気自動車であれば、島に対するイメージも変わって来るのではないかという考えもあったので、取り組んでいきたいという思いがある。

委員：12Pの介護サービスについては、「特別養護老人ホーム入所者への支援を継続していきます。」とあるが、現実的には順番待ちという状況であり、

規模的にどうにかならないのかという感じがするので、国や道に要請していかねばならないと思う。

委員：介護支援の申請をして下さいと言っても内容を分かって貰えない。

事務局：説明しても理解し難い部分がある。

委員：介護支援を請求して下さいと言っても年寄り扱いだと思われるし、その辺をよく理解していないので大変だと思う。受けたくてもサービスを受けられない人が多い。

委員：これについては、社社と町の方で連携をとって頂ければと思う。

委員：島に社会福祉協議会の職員も居るので、住民に対して常にアンテナを広げたような形で、小さな事でも良いから情報を言ってくれれば、その方に対してサービスの提供なり、役場との調整も可能なので、小さなことでも良いので情報を提供して欲しいというのが切実な願いである。

委員：焼尻島の場合は、安否確認ということでヘルパーが声掛けをしているが、独居の方や老夫婦の方で拒否する方がいる。その場合は、どうやって安否確認すれば良いか、電話だけだと声だけなので、直接話をしたいということで、すこやか健康センターとも話をしている。去年の秋位から行かないということを知ったので、偶々ここ何年かヘルパーが周っているから「顔を見に来るかな、話をしに来るかな」と言ったら、「いいよ」と言ってくれる人が3人程いて、すこやか健康センターと話をし、生活状況を把握しながら、介護保険の方はデイサービスもあると勧めても良いと。認定しているがヘルパーさんもいらないと、それで留守で居なかった場合は、近所にも声をかけて病院に行っているとか、普段の状況を近所の人から情報を得るなりして対応している。

委員：集まれる環境を作るということも手かもしれない。せっかく場所があるのだから、そこに集まれる環境を何か考えられれば良いと思う。

委員：年2回程ボランティア活動をしていて、クリスマス会や3月のお雛さんの時はすごく出席者が多いので、そういう時に情報交換が大事だと思って聞いている。結構元気な老人が多く夏は畑仕事などをしていて良いが、冬の場合は、閉じ籠りというか、電話一本で配達だとかも出来るので、そんなに接する機会が無い。だから、10日に1回だとか月2回位という感じで、また来ても良いか確認し、気になる方には顔を出して、何とか一日でも多く離島で生活して貰いたいという気持ちで訪問をしている。仕事では無くてボランティアで周っている。そうすれば、こっちも安心する。本当はサービスを受けてくれると一番良いが、なかなか言っても受け入れてくれないという方が結構多い。

委員：天売の場合は人数が多く、デイサービスに行けない人も居るので、老人クラブを勧めるが移動手段が無いので、やはり出て来れない。

- 委員：教育及び文化の中で「特色ある学習を推進します。」とあるが、ここにも高齢者学習を入れて欲しいと思う。
- 委員：高齢者学習に限らず、参加人数は少ないと思うが、生涯学習の場を作って欲しい。
- 委員：小・中学校については、天売・焼尻と本土の小・中学校同士の交流の部分を推進して行った方が良いと思う。資料3の意見の中にあったが、島の子ども達は離島ということでハンデを余儀なくされているのではないかという気がしている。やはり、離島では出来ない本土での教育との違いの面をさらけ出して、交流的なものがあれば良いと思う。
- 委員：天売・焼尻の中学生が卒業して高校に進学する場合、羽幌町の親が負担していないという訳では無いが、天売・焼尻の親は7万も8万もかかる。今は人数も少なくなっているし、町として補助金を出して下宿代を持つとかしなければ、羽幌高校の生徒も減っている。前にも同じ話をしていると思うが、全然聞く耳を持たない。同じ羽幌町でありながら余りにも差があり過ぎる。今まで気が付かないのはおかしい。
- 委員：苫前町には支援があるので、焼尻から苫前に行く人がいる。実際、町はやらなければならないと思う。
- 委員：焼尻の場合、島外に出ないと高校に進学出来ない。
- 委員：それだけ格差があるということである。プールにしても羽幌町と焼尻では全然違う。全てにおいて格差がある。
- 委員：昔、我々が小さい頃は、海があるからいらないと思ったかもしれないが、今の子ども達は海でそんなに泳がない。具体的に言うと、羽幌町の学校にはプールがあるのだから、プールを体験させるということも一つの手だと思う。
- 委員：それは大事なこと。
- 委員：あとは、冬場になったらスキー体験とか、焼尻で、実費でスキー体験をした経緯があり、天売でも1度やった経緯があったので、天売と焼尻小中学校の校長の意見の中で、教育委員会にもリフトのあるスキー体験をさせたいということで、お願いしてはどうかという話をしたことがあって、これからはそういうことも必要と思う。
- 委員：同じような事を体験させてやる必要がある。
- 委員：人材育成資金を出すと言っても、宿泊費がかかるので島の人には受けたくても受けられない。
- 委員：子どもに関して言えば、自分自身も団体競技を一度もやったことが無いまま、留萌高校に進学した。最初の体育の授業の時間に、縦に並んでいる人同士でチームになって、レベルを見るからバスケットをやってと言われて、困ったことがあったので強く言いたい。プールやスキーとか時期のものだけでは無く、団体競技に触れさせてあげるとするのは非常に大事だと思う。



- 委員：そういうことを目標に、もう少し細かく盛り込んで欲しい。これからは、教育が一番大事なことだと思う。よく予算にしても教育費を削るのは駄目だと言っている。これからは担う子ども達の予算である。
- 委員：特色ある学習と言っても、島だと子ども達に継承することも出来ないのであまりにも可哀そう。郷土芸能もあったがそれも無くなってしまった。文化的なことも進めて欲しい。
- 委員：せいぜい今の時期は、かるたを張り合うしかない。
- 委員：焼尻は、全道で実績を残して来たが、旅費を寸志等で賄っていて、町にも支援を求めた事もあった。結局連れて行けなくなった1年後か2年後に必要な人数にも達しなくなってやれなくなった。
- 委員：子ども達もそうだが、成人と高齢者を含む生涯学習を入れて欲しい。
- 委員：島でやるものだけでなく、羽幌で講演が聞けるなど、少し旅費を助成するというものがあれば非常に有り難い。
- 委員：やはり、羽幌では郷土芸能でこきりこ唄があるが、島にも来て教えてくれれば良いと思う。
- 委員：勉強したい、視察をしたいと言う場合、人づくり基金ではリーダーを育てると言っているが、使い勝手が悪かったり、何人かのグループを形成することなどの条件があり、そのグループを形成出来ないで困っているのに、補助金があっても使い勝手が悪い。
- 委員：それは、何の分野でも同じことだが、補助金はストレートに出してくれるようなシステムでなければ駄目だと良く言っている。
- 委員：終いに、好きで住んでるんでしょと言われたらどうしようもない。
- 委員：本土の人が受けられて、島の人を受けられないというのは、そもそも格差がある。何とかして欲しい。
- 委員：国内交流については、人づくり基金というものがあるし、そういうものを活用して交流させたいという思いがある。天売・焼尻と他の島との交流も良いのではないかと思う。
- 事務局：交流事業を企画した場合、興味を持つ方が多い。
- 委員：金沢の姉妹都市との交流にしても、条件として離島は除くと書いてある。
- 委員：例えば、どこか島を持っている町との姉妹都市の様なものを提携して交流するのも良いと思う。
- 委員：前に、群馬県の温泉地で焼尻の反対の「尻焼温泉」があって、そことの交流は、夏は向こうの子ども達が島に泳ぎに来てもいいし、冬は焼尻の子ども達が温泉地に行くというものがあったが、誰も返事をしなくなった。
- 委員：人づくり基金が町にあるが、活用方法を島民は知らない人が多いと思う。昨年、海士町に天売のグループが視察に行ったのは、町の人づくり基金からいくらか貰って行った。そういうものを活用し、交流するのに人づくり

- 基金があるということで、もう少し島民にアピールすることも必要と思う。
- 委員：焼尻で町議に話をしたら、役場に聞きに行くように言われ、役場に「どういう風にしたら使えるのか？」という話をしたら、グループを作るように言われた。漁協青年部で行ったらいいのでは？と言われたが、興味があるのは自分だけで、個人では使えないのかという話で止まった。仕方なく町議に話をしたら、セブンイレブンとか太陽財団とか他にも支援制度があるから、ネットで申し込んではどうかという話をされた。
- 事務局：昨日、町議が役場に来られて「人づくり事業基金」の話を受けて、制度の説明をした。該当するしないを勝手に解釈しないで、何か良い補助制度が無いかなど相談して欲しい。
- 委員：天売では、5人のグループが行って来て、道新に載ったり、島民に向けた報告会を行った。報告会自体も30人位集まって、島民の関心も高かった。自分自身も報告会を聞いた時に、よくここまで勉強してきたなという感じがあった。報告書としても良くまとめている。
- 事務局：結局、ただ単に行ってきただけでは難しいので、帰ってきた後にどうして行くのかというのが無いと使いづらい。
- 委員：お金だけの話の問題では無い。正直、自分で興味のある場所に見に行っても、観光しか出来ないで終わってしまう。やはり、コミュニケーションのツールが無いので役場に話を聞きに行くにしても全然知らない役場に行くのもどうかと思うし、漁協の団体や市場の人に話を聞きたいと思った時に行政が加わってくれれば心強い。
- 事務局：行政が入ると監査等があるので、民間でやる場合に比べると条件がキツく為らざるを得ない。
- 委員：焼尻だけで大変であれば両島でやったらどうか？
- 委員：これに行く時に一声掛けてくれれば行きたかった。天売は、「天売島おらが島活性化会議」などグループを作ってやっているが、焼尻には全く無い。
- 委員：5人の視察の中で、3人分は人づくり基金から出して、残り2人分は「離島漁業再生支援交付金」の中から漁業の関係の視察をするということで出している。
- 委員：定住移住については、例えば、定住するのであれば土地を提供するだとか。
- 委員：そういうことはやっても良いと思う。
- 委員：やはり、天売・焼尻位のへき地の離島では、余程魅力が無いと、優遇されないと難しい。地域おこし協力隊にしても、他所で同じ事にやっているのでも、給料にしても優遇措置にしても魅力的でない限り、羽幌町ですら難しいと思う。
- 委員：3年位前に焼尻でも、夫婦で部屋を借りて内地から来た人が居たが、寒くなったらいつの間にか居なくなった。

- 委員：やはり冬場、不安を感じるのではないか。我々も若いうちは良いが、晩年まで島に住んで居られるか、夏だけ島に居て、冬期間は羽幌に居るとか考える。
- 委員：あと10年経ったら焼尻は何人居るのだろうか。天売よりも100人少ない。
- 委員：10年後の焼尻の試算は190人になっているが、既に下回っている。
- 委員：籍だけ置いて島に居ない人もかなり居る。
- 委員：現状で、島に実際に居るのは180人位ではないのか。
- 委員：学校だって今後どうなるか分からない。
- 委員：学校もあと2、3年して先生達が居なくなったら10人単位で人が居なくなる。
- 委員：やはり、若い人が島で生活するためには、自分の子どもが生まれた時の教育のことが頭にある。
- 委員：少しでも同じ問題を意識共有出来れば良いが、焼尻の場合は、例えば、小学校から中学校3年生まで一人だけで何の競争も無い中で教育を受けさせるかと言ったら、これからは子どもが生まれても6才まで焼尻に居て、何かしらの形で違う所に進学させるということは確実。そうさせない為に、子どもを連れて世帯ごと移住してくれる人には優遇政策があるなどの具体策が急務である。
- 委員：漁業は、ご飯を食べられている内は取りあえず問題無いが、先の事を考えたら結婚は出来ないし、子どもは産めない。例えば、この状態で婚活の企画をやっても誰も申し込めない。意識調査の段階で4人位しか居なかったとのこと。
- 委員：役場の異動する人も子どもが居る人を勤務させたり、警察の異動も若い人を来させるようにしないと、減っていく一方。一人でも二人でも増えて欲しい。
- 委員：やはり、若い赴任者が来ると、40歳位の方が来るよりも、親心からか島民から心配されて、すごいスムーズにコミュニケーションも取れる。ある程度独身生活に慣れている人が来ると、全然溶け込まないまま居なくなってしまう。
- 委員：集まりは、それなりにやっている。
- 委員：名前も知らないまま終わってしまう。前に郵便局や社協の派遣職員が居た時は、皆可愛がって貰っていたし、交流があった。出来るだけ若い人や家族が居て関わりのある人に継続して来てもらうなどの小さい事も離島振興かもしれない。
- 委員：自分は、雇用を生みたいし、漁師も増やしたい。自分個人で誰かを雇って1年なり2年なり船に乗せながら月10万なら10万、15万なら15万ってやって行く事は可能だが、その人を他所から受け入れる時に家が無い。

委員：全てが関連している。

委員：教職員住宅が空く事は目に見えている。

委員：そこだけでも早速やってくれると非常に有り難い。

委員：住宅の改修は、島の方で考えているのか？

事務局：教職員住宅の話は、先生が減っているので、違う人が入れる様な手続きは教育委員会の方で、先生が増える予定が無いということであれば一般の人という話はスムーズに出来そう。

委員：既存の物に入ってもらおうということか？新築や建替えは今の所無いのか？

事務局：今の所は無い。古い住宅なので、当然そのまま入れなければ直してということになる。

委員：天売もそうだが、教職員住宅でも古いピンク長屋の様なもので、住宅に入りたいと言った時に40年、50年経過している住宅になんて入りたがらない。そういう整備をやれば入りたいという人はいると思う。

委員：確かに空き家はあるだろうが、それを直してとなれば建てるだけお金がかかる。改修するのであれば、大規模に改修すればいいのではないのか？少しずつやればどうしても隙間風や湿気が入ったりする。風呂にユニットを付けた所も今は空き家になっていて、ただユニットを付ければ良いというものではない。

委員：計画に細かいことを載せることが出来ない、いつスタートするかも言えないのであれば、せめて、今挙がっている問題だけでも調査して、予算を見積もり、島民の意見だと町長に出して欲しい。実際にやるやらないは別として。

委員：現に、住宅を探しているという話が出ている。先生方の住宅が空かないかということで。そのうち町にも言って来ると思う。

委員：是非とも検討というか着手してもらいたい。ちなみに、来年度辺りとか全く改修の予定は無いのか？

事務局：個人の住宅に関しては、行政は手を付けられない話。あと、教職員住宅については、まだ上に話した訳ではないが、町として一般の島民の方に貸し出すとなるとおそらく公営住宅と同じ取り扱いになると思う。そうになると、公住レベルの維持管理ということになると思う。

委員：総括表の中で、焼尻島の教職員住宅の空きが4戸あるとなっているが、これは改修しなくても直ぐに入れる状況ということなのか？

事務局：自分も見た訳では無いので、直ぐ入れるという状況ではないと思うが、少し手は加えなければ難しいと思う。やはり、人が入っていないと痛むのが早い。

委員：そういうことは、計画的にやって欲しいというのがある。

事務局：それは、地元として住む場所が無いという所が、はっきりそういう話が

聞こえてこないもので、支所を介して聞いたので、島の近々の課題という事であれば担当課とは話をしたい。

委員：新規漁業就業者の人を募集して何人か来ると言う事になれば、町としては確保しなければならない。

委員：ただ、それは、住宅が無いから雇えないということで、住宅を確保してから動き出せる。

委員：それも、来るか来ないかまだ分からないのだから、ある程度決まって、何人来るか分からないが住宅を確保するということになる。

事務局：今日話を聞いたので調整するが、今言ったように住む人がいるか居ないのか分からないということで、それだけのお金を投資するのか？という話に当然なると思う。

委員：情報通信については、IP電話があるし、これ以上のものは無いと思う。

委員：これは、かなり優遇されているなど実感出来る数少ない施策と思う。

委員：産業振興については、やはりお金のかかることで、町としてはそれなりにお金をかけても考えて欲しいなと思う。

委員：例えば、地域おこし協力隊やめん羊サミットの話だとか、焼尻島民は地方版の新聞で知る事が多いが、一番温度差を感じる所が、その決定にあたって、焼尻で地域おこし協力隊をどう活用するのかという議論が何も島民から汲み取られないままやる事が決まって、いざ受け入れて失敗ということに繋がるのではないか。例えば、よさこいをめん羊まつりと一緒にやった時でも、あれほど町から助成金を貰ってやったにも関わらず、次の年リピーターで観光客が増えたかと言うと減っている。婚活交流事業にしても、内情を先に調べて、町としては事前にある程度把握しておきたい。それがないと動き出せないというアンケートだったかもしれないが、島民の中には行き届いていない。めん羊サミットが行われるという記事が新聞にあったが、産業課が250万位予算を付けるとあるが、島民はそれを誰も知らない。じゃあ、めん羊まつりと一緒にやる場合、なぜよさこいの時に失敗したのに同じ様に単発でやるということになるのか。

委員：サミットとめん羊まつりは一緒にはやらない。

委員：自分の知っている情報は、共同開催を模索するという様な形で新聞に書いてあった。

委員：サミットは、平日にやるということになっている。

事務局：地域おこし協力隊については、何をやるかはこれから。実際、行政の中でどういう仕事があるかという部分と、当然、現地が主になるのでこれから支所とも詰めて行く。婚活の話は、1回目の委員会で委員の意見で出ていた話で、その他にも要望があるという話を踏まえての話で、実際やるに

して女性を招いても、いざ募集したらいなかったでは失礼な話なので、ある程度島の中で事前に嫁が居なくて困っているという話を捉えての話。

委員：最近、特にタイムラグというか温度差を感じる。情報を知るのも必ず新聞で、町からの情報という訳でもなく、どこまで正確な情報かも分からない。11月9日の会議だったが、覚えているのが自分達も委員会で集まる日だった。そして、当日フェリーが欠航して会議が流れた状態で11日か12日の記事に焼尻から代表が出たと載っていて、なぜ焼尻の代表が既に決まっているのか。焼尻支所長にも確認したが、「振興局が勝手に動いたみたいだ。」で終わったが、それで済むのかという気がする。

委員：産業振興と観光振興を進めて行けば、自ずと雇用に繋がっていくと思う。

委員：そのとおりだと思う。

委員：交通に関しては、プロパンガスだとガソリンだけではなく灯油の運賃助成も必要なので進めて欲しい。

委員：海上運賃の話で、町単独では難しいという話だったが、漁師と商店を営んでいる人が決定的に違うのが、商店で売っている物は離島料金が加算されているが、漁師が出荷する魚はただでさえ漁価安なのにフェリー運賃をかけてしまうと赤字になる。本土との格差を何とかして欲しい。

委員：これについては、去年、IP電話で天売・焼尻・羽幌を繋いで討論したことがあり、その中でフェリー運賃の話になって、フェリーの職員もいたが「運賃を下げろと言っている訳じゃないし、企業努力をしろと言っている訳じゃない。国や道の支援を引き出せ」と、いうことを言っている。何か、フェリー会社の担当者もちょっと気まずいような感じがあった。企業努力はしているのだから、もう少し補助金を国や道から引き出すような方法を考えた方が良くということ。

委員：自分自身は、人のフェリー運賃はそんなに高い気はしない。天売から見れば距離が短い部分もあるが、天売だったとして考えても極端に高い金額ではないと思う。それよりも生活物資とか漁業者の魚とか、とんでもない数のタラが天売で揚がって、一つ一つにそんなに運賃を掛けて何千箱も出荷するとなったら生活に直結する。フェリー運賃が生活に直結する人がいるかもしれないので何とも言えないが。発砲スチロールは羽幌から取り寄せるのにお金がかかって、また出すのにお金がかかっている。例えば、発砲スチロールではなくて、プラスチックで回収式の再利用可能な箱を町が予算を組んで支度してくれるとか、そういうことでも良いと思う。魚の値段が下がっていることが、経営を圧迫している状態で、獲れば獲るほど赤字になる。運賃問題の直接解決にはならないかもしれないが、再利用できるプラの箱とかで魚を運搬することが出来れば、漁師も納得出来る部分があ

と思う。と言っても、交付金自体も新政権でということになると、更に問題が先延ばしになって投げられるのではないか。

事務局：平成 25 年度からの事業なので、交付金の話はどこまで中身が濃くなって来るかと言う所だと思う。

委員：生活環境は、公営住宅の適切な維持管理を進めて行きますという部分だと思う。合併浄化槽自体も設備投資がかかるので、補助金があってもお年寄りには可哀そうだと思う。これからリフォームする人には、環境保全のために勧めて行くべきだと思う。

委員：防災は、去年、登別で停電のことがあったが、陸続きであっても復旧するまでに時間がかかって、その間は電気も無い、ストーブも無い生活をしていて、例えば、天売・焼尻で事故があったときに、電気の対策はどうかと考えれば恐ろしいこと。停電が起きると言う事は、悪天候の時に起きると思うが、そうなれば当然フェリーも動けない。やはり、大きい発電施設の整備も必要ではないかということと、天売の場合小中学校が避難場所になっているので、風力発電で多少大き目の物を置けば、そこだけでも電気を供給する方法も考えられるので、さっきのエコに結び付けて勧めて行きたいという考えもある。

委員：焼尻の研修センターと高齢者支援センターの所は発電機を繋いでいる。

委員：あの位の発電機では心細い。

事務局：焼尻の発電機の方は、施設に直結する形になっているので、発電機のガソリンが確保されている内は、あの建物自体が生きる。天売の方は暖房が使えないので、高校からジェットヒーターを持ってきて焚くことを想定している。

委員：あとは、毛布が住民の数も無い。電気が切れた時のために、ポータブルストーブも何台か用意しておかなければならない。

事務局：震災が起きてから、毛布やストーブを購入している。食べ物は、皆さんそれなりに備蓄しているので、2、3日は持つと思う。これは、島もそうだが、羽幌も何も無い。毛布もポータブルストーブも結構な数を買うようにしている。

委員：天売で支所の裏に風車があったが、あれは小中学校の裏に移したのか？

事務局：あれは、撤去した。今、新年度の事業で学校の裏に置く予定をしている。そのうち、まとまったら島民の皆さんにお知らせする。

委員：それで、どの位の電気が発電出来て備蓄出来るかということで、それを計算しながら将来的にそれが防災の方にも停電になった時にも使えるということであれば進めてもらいたい。

事務局：そういう考えで、新年度にあそこに置きましょうということ。太陽光も

置きたいと考えていて、予算要求をしている最中なので、決まったら皆さんにお知らせする。

委員：取りあえず全体的には終わったので、総合的に意見があればお願いしたい。

委員：総合的な意見も無いので、その他で事務局より何かあれば。

○事務局より次回委員会の日程について説明。

○閉会